

調査対象

家庭数全数を対象とした。

調査方法

WEBによるアンケート調査。

利用者総数

72

利用者家族総数(世帯)

61

共通評価項目による調査対象者数

61

共通評価項目による調査の有効回答者数

60

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

98.4

利用者調査全体のコメント

98.4%という大変高い回答率である。総合的な満足度では「大変満足」「満足」を合わせると95%であり、満足度が高い園である。全17問中、10問の設問について「はい」が90%を超えており、特に問1「保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか」は「はい」が98%、問2「保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか」問3「提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか」は97%が「はい」と回答している。

利用者調査結果

#REF!

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	59	1	0	0
「はい」が98%であり、満足度が大変高い。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	58	2	0	0
「はい」が97%、「どちらともいえない」が3%であった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	58	2	0	0
「はい」が97%、「どちらともいえない」が3%であった。食事に関する満足度も高い。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	57	2	1	0
「はい」が95%、「どちらともいえない」が3%、「いいえ」が2%であった。子どもたちが自然や社会と関わる機会を持っていることがうかがえる。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	41	6	2	11
「はい」が69%、「どちらともいえない」が10%、「いいえ」が3%、「非該当」が18%という結果であった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	55	3	0	2
「はい」が92%、「どちらともいえない」が5%、「無回答・非該当」が4%であった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	50	9	1	0
「はい」が83%、「どちらともいえない」が15%、「いいえ」が2%であった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	54	4	1	1
「はい」が90%、「どちらともいえない」が6%、「いいえ」「無回答」が各2%であった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	54	5	1	0
「はい」が90%、「どちらともいえない」が8%、「いいえ」が2%であった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	54	6	0	0
「はい」が90%、「どちらともいえない」が10パーセントという結果であった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	55	5	0	0
「はい」が92%、「どちらともいえない」が8%であった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	48	3	2	7
「はい」が80%、「どちらともいえない」が5%、「いいえ」が3%、「無回答・非該当」が12%であった。そのような経験がないという保護者が「無回答・非該当」にしたと思われる。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	56	3	0	1
「はい」93%、「どちらともいえない」が5%、「無回答・非該当」が2%であった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	51	5	2	2
「はい」が85%、「どちらともいえない」が8%、「いいえ」「無回答・非該当」が各2.5%であった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	51	8	0	1
「はい」が85%、「どちらともいえない」が13%、「無回答・非該当」が2%であった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	46	5	0	9
「はい」が77%、「どちらともいえない」が8%、「非該当」が15%であった。特に不満や要望がないという回答者が「非該当」にしたと思われる。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	35	12	2	11
「はい」が58%、「どちらともいえない」が20%、「いいえ」が3%、「無回答・非該当」が19%であった。				

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	保育士、栄養士、調理士、看護師がそれぞれの専門性を活かしながら、チームで保育にあたっている
	内容	職員は「とちの木の子どもはみんなで育んでいく」という意識を持ち、保育士、栄養士、調理師、看護師がそれぞれの専門性を活かしチームで保育にあたっている。全職種が子どもの興味・関心を的確に捉え、相談し合って援助している。今年度は魚に関心がある子どもが多いことに着目して、栄養士の提案でぶりの解体ショーが実現して、大変楽しい経験となった。特別な配慮が必要な子の保育については、専門機関との連携や保育方法などを看護師がリードして考えている。また、パート職員も含めて、それぞれが持つ特技や能力を活かすようにしている。
2	タイトル	「あそびの年間カリキュラム」を作成し、年齢に応じて様々な遊びを経験し充実させている
	内容	各組で「あそびの年間カリキュラム」を作成している。4期に分けてごっこ遊び、構成遊び、机上遊び、絵画工作、歌・絵本、表現遊び、運動遊び、集団遊び、クッキングの項目で、年齢や、子どもの興味・関心に合わせて予想される遊びを明記し、様々な遊びを経験して楽しさや充実感を味わえる園生活となるように努めている。ポニーを園に呼び、5歳児は触れ合いからポニーに乗って歩くまでを積み重ねる活動や、臨床美術士に来てもらい、絵などで思いのままに表現するアート活動、春探しや山登り遠足、園庭の築山、土山などでの活動は当園の特徴である。
3	タイトル	地域交流を積極的に推進することで地域の子育て支援に貢献している
	内容	地域交流を積極的に推進している。子育て広場で近隣の子どもたちと遊びをおこなうほか、コンサートなどの園行事に地域住民を招待して交流を深めている。また、地域の高齢者グループと年長児の交流や、乳児院・保育園とも連携している。地域委員会を設置し、住民や関係団体との連携を強化するとともに、園児が地域行事に参加できる環境を整えている。さらに、園のイベントに地域住民を招待し、子どもたちとの直接的なふれあいを促進し、子どもたちの社会性の育成を図るとともに、地域全体の子育て支援に貢献している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	子どもの情報を全職員で共有できる仕組みづくりが期待される
	内容	職員間の情報共有の場として、クラス会議や職員会議のほかに昼礼を毎日開催している。職員会議の回数を減らしたことや、月の間指導計画をなくし期の指導計画に変更したこともあり、他クラスの情報が入りづらくなっている。会議や期案の工夫、補足資料、記録ソフトの活用など、子どもの情報を全職員で共有できる仕組みづくりが期待される。
2	タイトル	人権研修や子どもの権利条約の研修を受けているが、具体的な虐待対応のマニュアルやフローチャートの整備を期待したい
	内容	園では、人権マニュアルの確認や「子どもの人権を尊重した保育のチェック表」の年1回の確認で、不適切保育や虐待の防止に努めている。虐待の発見時には園長に報告することとし、関係機関と連携することとなっているが、虐待防止や対応に関する具体的なマニュアルやフローチャートが策定されていない。今後は、不適切保育や虐待に関する研修の受講も含めて、基本的な事項の理解や周知徹底を期待したい。また、誰でもが対応できるようにマニュアルを文書化し、フローチャートは掲示することが望まれる。
3	タイトル	事業計画書及び事業報告書の項目や内容の明確化と簡潔化が期待される
	内容	事業計画書と事業報告書を通じて方針や成果を共有しているが、事業計画書の内容は前年踏襲とし、事業報告書に項目ごとに丁寧に事象も含めて多くの記載がなされている。具体的かつ詳細であり、内容の抜け漏れは回避できるものの、重要なテーマや気を付けるべき項目が埋もれてしまう可能性もある。別紙資料を作成することや既に作成している資料を参照するなどして、事業計画書や事業報告書は簡潔にし、重点テーマに対してPDCAサイクルを回していけるような作成形態とすることを期待したい。